

所 報

氷見市教育総合センター

〒935-0016 氷見市本町4-9
(氷見市教育文化センター内)

TEL 0766-74-8220 (代)

FAX 0766-72-8122

e-mail kyouikukenkyu@city.himi.lg.jpホームページ <http://www.city.himi.toyama.jp/hp/department/Top/kyouiku-i/kyouikukenkyu>

自然のサイクルを考える

氷見市教育委員会
教育長 鎌 仲 徹 也

ある年の新聞に、とても驚く記事が掲載されていました。その題は、「捨てられる落ち葉」でした。主な内容は、『都会では、街路樹が育てられ、街全体があたかも自然との調和の取れた景観を維持しようとしている。街路樹は、年々大きくなり、そして晩秋には全ての葉を落とす。それが、銀杏やカエデ・ケヤキになると、大量の落ち葉が道路を埋め尽くすことになる。景観も悪く、雨の日は車のスリップ事故にもつながり、役所の方で落ち葉の処理が行われる。落ち葉は、ゴミとして焼却される。』でした。落ち葉を、ゴミとして焼却している事実は、私にとって、とても衝撃的で、心の片隅に何ともいえない不安として残りました。最近、我が家にくる植木屋さんが、「どうも、落ち葉や剪定した枝葉をその場から持ち出すようになってから、樹木の消毒の回数が増えた」と話されていたのを思い出します。ある日、グーグルアースでギリシャのパルテノン神殿の周辺を見ていて緑が少ないことが気になりました。古代文明を繁栄させたギリシャや今のトルコ西海岸は、どこもかしこもはげ山だけです。しかし、地中海文明は森の文明であったことが分かっています。地中海文明は、多くの人口を支える為、森林資源を伐採し、それが土壌の劣化を招き、他から侵略される前に衰退していったという説が有力視されています。人間が植物の育たない土地にしてしまったのです。

あなたは、里山へ入ったことがありますか。(最近はいノシシや熊が出没して危険ですが) 中秋、栗やアケビ、山葡萄、そして自然薯と、葉が落ち始めた里山は、山の幸の宝庫であります。そして、晩秋になるとすべての木々が落葉し、山の斜面一面が落ち葉で敷き詰められます。木々の足下まで光が差し込み、ふかふかの絨毯の上を歩いているようです。里山は、そこに住む人と自然とが共存する空間でした。人は、自然のサイクルの一部で、いずれはほかの動物と同様、自然に帰っていきます。ほんの数十年前までは、人は自然のサイクルと一緒に生きていました。自然のサイクルを大切に、自然を敬って、自然に生かされているということを大事に生活していたのです。自然への感謝や願いは、「祭り」という形で心を一つに、各地域で継承してきました。

ある日曜日の昼下がり、何気なく見ていたテレビに、イギリスの公園の風景がながれていました。公園には落葉樹が多く植えられており、大量の落ち葉で埋め尽くされています。その落ち葉を、多くの人々が熊手でかき集め木々の間で燃やしています。その焚き火の煙が公園内にたなびき、何ともいえないのどかな風景でした。『きっとこの国の街路樹の落ち葉は、日本のようにゴミ焼却場へ持ち込まれていないだろうなあ』と思いつつ、私はうつらうつらとしていたのです。

平成30年度 夏季研修会で学びを深める

今日的な教育課題を踏まえた夏季研修会を企画しました。その研修会的一端をご紹介します。

★ICT教育研修会 7月26日

演題 新学習指導要領とICT活用

講師 東京学芸大学 准教授 高橋 純 先生



ICTを使うことが目的ではなく、学習内容の質を高めるための道具として活用し、「子供の頭がフル回転している授業」を目指してほしいと語られました。また、文字入力等の大人になっても使う操作について、子供のうちから身に付けておくことの必要性についても話されました。

★第1回教育セミナー 7月27日

演題 主体的・対話的で深い学びの授業づくり

講師 國學院大学 教授 田村 学 先生



理解を深めていく発言やつぶやきを紹介しながら、「深い学び」について具体的に教えてくださいました。音声言語による話合いの後に、文字言語での振り返り・丁寧な熟考をすることが深い学びを実現するために重要であるとも話されました。

★幼保小連携教育合同講演会 7月30日

演題 子どもの利益を最優先する幼保小連携を目指して
～どの子どもも安心して学べるために～

講師 北海道教育大学 教授 阿部美穂子 先生

接続支援の考え方として、「発達の状態に応じた柔軟な対応」「幼・保・小の実情に応じたオリジナル接続プランの実行」が大切であると話されました。また、育てたい子供の力を明確にし、一貫して伸ばしていくために「カリキュラムをつなぐ」ことも大切だと話されました。



★第1回外国語教育研修会(実技研) 8月2日

内容 「外国語教育ひみプラン」について及び授業体験

講師 水見市教育総合センター 指導主事 稲積 玲子

小学校教員の外国語活動に対する指導力の向上を目的に実技研修会を開催しました。新しく着任したALTがゲームに参加する場面もあり、参加者は楽しく外国語に慣れ親しみました。また、T1体験を行うことにより、ALTに頼りがちな指導方法からの脱却の必要性を強く感じていました。



★ふるさと学習研修会 8月7日

水見漁港・ひみラボ水族館・市立博物館の見学
「氷見の万葉」について

ふるさと氷見への愛着と理解を深め、教材としての活用方法を探るため、新規採用教員や転入教員を対象に研修会を行いました。漁港やひみラボ水族館等の主な施設を見学しながら説明を聞いたり、「氷見の万葉」について講義を受けたりしました。



★第2回教育セミナー 8月9日

演題 互いに認め合い高め合う学級集団づくり

講師 高知大学 教授 鹿嶋 真弓 先生

主体的対話的に学ぶとはどういうことなのか、そのためにはどのような授業を展開すればよいかについて、体験活動を通して具体的に学ぶことができました。また、子どもが問いをつくる授業を行うための手法についても紹介され、2学期に向けて元気ができる研修会でした。



★外国語教育指導力向上研修会 8月21日

講師 富山大学大学院 教授 岡崎 浩幸 先生

「新学習指導要領における4技能と全国学力・学習状況調査英語調査について」の演題の下、中学校英語科教員を対象に指導力の向上を目指して実施しました。これから育成すべき能力・資質や授業改善について具体的に学ぶことができ、すぐに授業に生かすことのできる内容でした。



★若手教員研修会 7月30日、31日、8月6日

内容 教科指導・道徳の指導・生徒指導

明和小学校瀬戸佳美教頭による「子どもが輝く教科指導」、朝日丘小学校山崎里美教諭による「道徳の指導の在り方」、南部中学校森谷信久教諭による「生徒指導の機能を生かした集団づくり」など、喫緊の教育課題について、身近な先輩から学びました。どの研修会も具体的で、今後の学級経営や学習指導に生かせる内容であり、参加者にとっては大変有意義な研修となりました。

I C Tの有効活用に向けての校内研修の充実

本市では、学力向上を支える授業づくりの一環として、I C Tを活用した教育を推進しています。そこで、I C Tの効果的な活用について研修を深めるため、教育ソフト企業が各学校へ出向いての校内研修を実施しています。研修の内容は、教育ソフトの操作方法、ネットワークの活用方法等です。また、I C T教育推進協力校である西條中学校、窪小学校、宮田小学校では、「I C Tを活用した授業づくり研究会」を開催し、効果的な活用方法について研修を行っています。

これらの他にも、I C T活用の校内研修会を自主的に行うなど積極的な活用に向けて取り組んでいる学校もあります。本年度の学校訪問研修等では、電子黒板やタブレットP Cを有効に活用した授業を数多く参観することができました。

今後も、I C Tが日常的に扱われる学びの道具となるように、様々な研修会を行いたいと思います。先生方の更なる教育利用をよろしくお祈いします。



小・中学生の力作がいっぱい！！ ＜氷見市児童生徒科学作品展覧会＞

開催期間 9月8日（土）～9日（日）

開催会場 氷見市教育文化センター 4階ホール



今年度の児童生徒科学作品展覧会には、小・中学校から76点（小学校36点、中学校40点）の力作が集まり、およそ370名の来場がありました。自分が興味をもった自然事象について、粘り強く追究し、見事な成果を挙げた作品が出そろいました。

審査の結果、以下の6作品が、富山県科学展覧会に出品されました。

| 作 品 名 | 学校・学年 | 名 前 | 県科学展 |
|--------------------|----------------|----------------|-------|
| ありよけ だいさくせん | 比美乃江小学校 1年 | 谷井 知歩 | 研究努力賞 |
| カブトムシのかんさつにつき パート2 | 朝日丘小学校 2年 | 十二町 悠紀 | 創意工夫賞 |
| きゅうり びっきゅり！ | 上庄小学校 3年 | 高橋 希菜 | 研究努力賞 |
| トンボのひみつⅢ | 久目小学校 6年 5年 | 角田 早織 角田 蒼真 | 研究努力賞 |
| 電流と磁石Ⅱ | 南部中学校 2年 | 藺生 拓海 | 研究努力賞 |
| 水の上を転がる水球の研究Ⅲ | 西條中学校 科学部 | 四十住 陽輝 外10名 | 創意工夫賞 |

「ひみっ子の夢と希望」きらめき推進事業講演会（開催案内）

テレビ朝日ニュースデスク（高岡市出身・作家）

出 町 讓 氏 講演会

「『正面突破』の精神で」

開催日時 11月16日（金）13時50分～

開催会場 ふれあいスポーツセンター

参加対象 中学2年生、教員、一般希望者等

出町讓氏が、テレビ局員、そして作家として、経験されたことや学んだことなどを語ってくださいます。



成長し続ける教師に

比美乃江小学校 西森 友和



教員生活がスタートし、半年間が過ぎた。何もかも初めてのことばかりで、毎日悩みは尽きない。しかし、学級の元気な子供たちの姿を見ると、「今日も頑張ろう」という勇気が湧いてくる。また、温かい先生方や保護者の皆様に支えられ、これまで多くのことを学び、乗り越えることができた。これからも感謝の心を持ち、日々の一つ一つの出来事を糧として成長し続ける教師でありたいと思う。

子供と向き合って

宮田小学校 小竹 祐香



私は「ルールを守り、互いを認め合う子供」を目指し、粘り強く子供と向き合ってきた。「時間を守る」や「ありがとう・ごめんなさいを言う」など、学級でのルールを徹底するとともに、子供との会話を大切に、分かり合えるまで話し合い、信頼関係の構築に努めた。こうした関わりの中で、子供を丸ごと受容することの大切さを学んだ。今後も子供が安心して過ごせる学級づくりに努めたい。

毎日が学び

窪小学校 竹原 瑞樹



教師になり、あっという間の半年。その中で、児童の実態を基に魅力ある授業をされる先生や子供たちと全力でグラウンドを走る先生、視聴覚機器を駆使して授業をされる先生等、多くの先生方から子供たちと向き合うための心構えを学んだ。また、子供たちと触れ合う中で、児童理解の難しさを知った。これからは、「これだけは負けない」と誇れる「教師力」が身に付くよう自己研鑽に励みたい。

半年が過ぎて

上庄小学校 瀬戸 萌子



新潟県から氷見に来て半年。方言などへの戸惑い、自分の力不足に苛立ちさえ感じた日々。でも私は恵まれている。尊敬できる先生方に囲まれ、目標を見付けることが出来ているからだ。子供と関わることは、喜びばかりではない。でも授業で見せてくれるあの真剣な表情や言葉は私に勇気をくれる。これまでの教職経験は一度置き、「1年目のつもりで!」、子供たちに向き合って成長していきたい。

教員としての半年を振り返って

海峰小学校 神代 真利亜



「教員という仕事は99%大変。でも残りの1%の楽しさややりがいと頑張れる」という言葉を聞いたことがある。多くの時間を共に過ごす中で、子供が抱えている悩みや成長に気付くことができるようになった。何をどのように支援することが最善策なのか手探りだけれど、関わり続けることで、必ず思いは伝わると信じている。これからは、楽しさややりがいの割合が増すよう、努力し続けたい。

生徒と共に歩む

北部中学校 谷口 裕樹



生徒と共に歩む教師になりたい。一緒に笑って、一緒に悩んで、時には一緒に泣いて、そんな教師になりたいと思い、この半年、時間がある度に生徒と接するようにしてきた。クラス担任ではないが、その分、より多くの生徒と接することができた。そんな半年は、今までの人生で最も充実した時間だった。教師としてはまだまだ未熟者だが、これからも生徒と一緒に歩む教師でありたいと思う。

生徒と共に学ぶ

西條中学校 高井 健太郎



「生徒の表情は、教師力を映し出す鏡である」という言葉を聞いたことがあります。授業中の生き生きとした生徒の表情を見ると、自信をもって次の授業に臨むことができ、逆に退屈そうな表情をしていれば、反省し授業改善に役立てることができます。教える仕事ではありますが、生徒から学ぶことも多い半年でした。これからも、生徒と共に学び、成長し続ける教員でありたいと思います。

